

2020年度第2回函館競馬特別レース名解説

<第1日>

○ 臥牛山特別

臥牛山（がぎゅうざん）は、函館山の別称。標高334m。名は、牛が寝そべっているように見えることに由来する。亀田半島との間に陸繁島を形成し、南端に大鼻岬、東端に立待岬がある。山から望む夜景はナポリ、香港とともに世界三大夜景のひとつに数えられている。

○ TVh杯

TVhは、札幌市に本社を置くテレビ北海道の略称。平成元年開局で、TXN（テレビ東京）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

○ 北海ハンデキャップ

北海（ほっかい）は、日本列島北方の海域を指す呼び名。かつての五畿七道である東海道や南海道に倣う形で明治2年に蝦夷を北海道と改称した。

<第2日>

○ 噴火湾特別

噴火湾（ふんかわん）は、内浦湾の別称。渡島半島に三方を囲まれた円形の大きな湾で名は周囲に活火山が多いことに由来する。イルカ、ホエールウォッチングが楽しめることで有名。また、ホタテ貝の養殖やサケ、スケトウダラ漁が盛ん。

○ 巴賞

巴（ともえ）は、水の渦巻くような模様。渡島半島南端にある函館湾は、その形が巴状になっているところから「巴湾」とも呼ばれる。

○ HTB杯

HTBは、札幌市に本社を置く北海道テレビ放送の略称。昭和43年開局で、ANN（テレビ朝日）系列。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第3日>

○ 恵山特別

恵山（えさん）は、函館市東部、渡島半島南東端にある二重式成層火山。太平洋に突き出すように位置する活火山で、現在も噴気活動が見られる。名は、アイヌ語の「イエサン（火を吹き溶岩が流れ落ちる）」に由来する。

○ 五稜郭ステークス

五稜郭（ごりょうかく）は、函館市にある日本で最初の西洋式平城跡の通称。名は、外形が星のような五稜形をしていることに由来する。現在は五稜郭公園として整備されており、桜の名所としても有名。

○ 渡島特別

渡島（おしま）は、北海道南西部、渡島半島南部の総合振興局。かつては松前藩の所在地でもあった。道内では温暖な地域で、その気候を生かしたトマトやかぼちゃなどの園芸作物の生産が盛んである。

<第4日>

○ 横津岳特別

横津岳（よこつだけ）は、北海道南西部、亀田郡七飯町にある火山。標高 1,167m。ハイマツやコケモモ、シラタマノキなどの約 400 種の樹木や草花が分布している。

○ デルマーサラブレッドクラブ賞マリーンステークス

本競走は、デルマー競馬場との間で実施される交換競走。

デルマー競馬場は、アメリカ合衆国カリフォルニア州デルマーに位置するアメリカを代表するリゾート競馬場。函館競馬場と同様、スタンドから海を臨むことができる。

マリーン（Marine）は、「海の」「海で産する」「航海用」を意味する英語。

○ 函館道新スポーツ杯

道新スポーツは、北海道新聞 HotMedia が発行しているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第5日>

○ 湯浜特別

湯浜（ゆのはま）は、函館市南西部の地名。名は、湯の川温泉の海岸部であることに由来する。南は津軽海峡に面し、国道 278 号が東西に走る住宅地域。昭和 11 年に現在の湯浜町となった。

○ 函館 2 歳ステークス（GⅢ）

本競走は、函館競馬の 2 歳チャンピオン決定戦として昭和 44 年に創設された重賞競走。平成 9 年に札幌と函館の開催日程が入れ替わったことにより、世代最初の重賞競走として、早期デビュー馬が目標にするレースとなっている。

○ かもめ島特別

かもめ島は、北海道南西部、江差町にある海拔 20m、周囲約 2.6km の小島。名は、かもめが羽を広げたように見えることに由来する。檜山道立自然公園の特別区域に指定されており、海水浴・釣り・キャンプなどを目的とした観光客が多く訪れる。

<第6日>

○ 下北半島特別

下北半島（しもきたはんとう）は、青森県北東部、津軽海峡に斧の形に突き出した半島。西に張り出す半島の主部には日本三大霊山のひとつに数えられる恐山がある。恐山のカルデラを中心とする一帯は、下北半島国定公園に属する。

○ 駒場特別

駒場（こまば）は、函館市南西部の地名。函館競馬場の所在地。明治 8 年に催された函館招魂社（現・函館護国神社）の祭典競馬が、函館における競馬の始まりとされる。その後、29 年に現在の駒場町に競馬場が建設された。

○ サマー2000シリーズ 農林水産省賞典函館記念（GⅢ）

全5戦で実施されるサマー2000シリーズの第2戦。

本競走は、昭和40年に2400mのハンデキャップ競走として創設された重賞競走。43年に2000mとなり、平成6年から別定重量戦、9年より再びハンデキャップ戦で実施されている。

函館（はこだて）は、北海道南西部、渡島半島の南東端にある市。名は、アイヌ語の「ウス・ケシ（湾の端）」から宇須岸と呼ばれていた地に、蝦夷地へ逃れてきた津軽の豪族が館を建て、これが遠方から見ると箱の形に見えたことに由来する。イカに代表される漁業が盛ん。西洋建築群をはじめとする豊かな景観を呈し、観光地としても人気がある。

○ 潮騒特別

潮騒（しおさい）は、潮が満ちるときに寄せ来る波が立てる音。「しおざい」ともいう。函館競馬場は、JRAの中で唯一スタンドから海を臨むことができる競馬場である。